

関係各位

農林水産技術会議シンポジウム  
～ A I ・ I o T の先にある農林水産業の未来～  
の御案内

時下ますます御清祥のことと存じます。

さて農林水産技術会議では、豊かな社会の実現に向けて、現場と最先端の研究をつなげるべく、今年度は、研究開発の目標・課題設定や、成果の情報発信等のあり方を中心に議論を行ってきました。今後は、新たな技術開発と社会実装の進め方について、早急に具体化を図ることとしております。

そこで今般、シンポジウムを開催し、こうした技術会議の議論を紹介するとともに、各分野で活用の期待が高まっているA I（人工知能）やI o T（インターネットによってモノをつなげる仕組み）によって拓ける農林水産業の未来や、その実現に向けた課題等についてパネルディスカッションを行い、参加者の意見を聴いて、今後の技術開発・社会実装の進め方に活かすこととしたいと考えております。

つきましては、農林水産研究の関係者はもとより、生産者・消費者等幅広い方の御参加をいただきたく、御多忙の折と存じますが、下記により申し込みいただけますようお願いいたします。

記

1．開催概要（詳細は別紙をご覧ください）

日時：平成29年3月21日（火）13:30～16:00

場所：トラストシティカンファレンス・丸の内

（東京駅隣接、丸の内トラストタワーN館11階 ROOM2+3+4）

定員：200名程度（先着順）

2．申込方法

申込メールアドレス（[gijutsukaigi\\_bosyu@maff.go.jp](mailto:gijutsukaigi_bosyu@maff.go.jp)）宛に氏名（ふりがな）、連絡先（電話番号、メールアドレス）、勤務先・所属団体等、住所を明記の上、3月14日（火）までにお申し込みください（先着順で締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。）

御参加いただける方には、事前にその旨を御連絡いたします。

お電話で申し込みされる場合は以下の問合せ先までお願いいたします。

お問い合わせ先

農林水産技術会議事務局研究調整課 仙波、佐藤、佐川

電話 03 - 3502 - 7399

農林水産技術会議シンポジウム  
～ AI・IoTの先にある農林水産業の未来 ～

## 1. 目的

我が国農林水産業・食品産業の発展に向けて、先進的な経営体の育成、生産・流通・販売の高度化等が求められ、新技術への期待も高まっている。とりわけ、AI(人工知能)やIoT(インターネットによってモノをつなげる仕組み)は、革新(イノベーション)をもたらし得る技術として、注目を集めている。

ロボット、オートメーションによる省力化、データを駆使した品質・収量の向上、消費者に新鮮、高品質を届けるフードチェーンの最適化等、様々な活用の可能性が考えられる。本シンポジウムでは、AI・IoTによって拓ける農林水産業の未来を語り合い、その実現に向けた課題を考える。

AI・IoTに限らず、農林水産業に変革をもたらしたり、現場の切実なニーズに応えたりする多様な技術開発が求められている。現場と最先端の研究をいかにつなげ、豊かな社会を実現するか、農林水産技術会議におけるこれまでの議論の内容も紹介し、参加者の意見を聞き、今後の技術開発の促進、技術戦略の策定などに活かす。

**2. 開催日時** 平成29年3月21日(火) 13:30～16:00

**3. 開催場所** トラストシティカンファレンス・丸の内  
(東京駅隣接、丸の内トラストタワーN館11階)

**4. 参集範囲** 生産者・消費者、地方自治体、大学、民間企業、研究開発法人等  
(200名程度)

## 5. 開催内容

1) 開会挨拶(会長)

2) 基調講演(外部有識者)

AI・IoTの最新動向と未来の農林水産・食品産業への可能性(仮)

3) 技術開発の現状と今後の進め方(技会事務局)

AI・IoTの研究開発と実用化に向けた政策の方向

技術開発と社会実装の進め方

・現場ニーズの収集、現場の課題の把握

・明確な開発目標の設定と研究開発

・社会実装の加速(研究成果・研究者情報の見える化、篤農家のノウハウの形式知化等)

4) 全体討議

パネルディスカッション

パネリスト：外部有識者、農林水産技術会議委員

会場との意見交換

5) 閉会

(以上)

# 農林水産技術会議委員プロフィール(1 / 2) (参考)



こばやし よしお  
小林 芳雄

一般財団法人大日本蚕糸会会頭  
元農林水産事務次官  
(H27.10～農林水産技術会議会長)



かわつら かつゆき  
川面 克行

アサヒグループホールディングス株式会社 社友  
(H25.5～農林水産技術会議委員)

- ・ 民間企業の研究開発部門での経験から、コストとベネフィットを勘案した数値目標を定めた研究開発マネジメントに精通。
- ・ (社)経団連農業活性化委員、同委員会農商工連携部会長及び同企画部会長も務める。

## 【略歴】

S50.4 アサヒビール株式会社入社  
H20.7 執行役員 研究開発本部長  
H23.7 アサヒグループホールディングス株式会社常務取締役  
H25.3 " 専務取締役  
H26.3 " 代表取締役副社長  
H28.3 " 社友



こぐち たつや  
古口 達也

栃木県茂木町長  
(H23.4～農林水産技術会議委員)

- ・ 中山間地で「儲かる町」実現のため、道の駅事業、有機農業(生ゴミを含む堆肥センター)、地元木材による施設建設等、福祉、文教などの町政全体をリンクさせて取り組む。

## 【略歴】

S52.4 (有)日野安魚店専務取締役  
H14.7 茂木町長(1期)  
H25.7 全国町村会会長代行  
H26.7 茂木町長(4期)



さかもと ひろこ  
坂本 廣子

相愛大学人間発達学部客員教授  
サカモトキッチンスタジオ主宰  
(H23.4～農林水産技術会議委員)

- ・ 幼児期からの食育を40年以上前から提唱し、日本の食育実践の先駆け
- ・ 食育、介護、防災、食の村おこしなど、広く問題解決に取り組む社会派料理研究家

## 【略歴】

S44.4 ダンロップ研究所入所  
S63.6 オフィス・ドゥー(有)設立  
H18.4 相愛大学客員教授

# 農林水産技術会議委員プロフィール(2 / 2)

せのお けんいちろう

妹尾 堅一郎

一橋大学大学院商学研究科客員教授  
NPO法人産学連携推進機構 理事長  
(H23.4 ~ 農林水産技術会議委員)

- ・ 内閣知的財産戦略本部専門調査会会長等、多くの委員や企業役員を歴任・兼務。ビジネスモデルと知財マネジメントに関する研究と教育に従事。
- ・ 著書「技術力で勝る日本がなぜ事業で負けるのか」は流行語にもなった。

## 【職歴】

S51.4 富士写真フィルム株式会社入社

H13.4 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

H15.4 東京大学先端科学技術研究センター特任教授

H16.4 NPO法人産学連携推進機構理事長、九州大学産学連携センター客員教授

H21.4 一橋大学大学院商学研究科客員教授

なんば しげとう

難波 成任

東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
(H27.4 ~ 農林水産技術会議委員)

- ・ ファイトプラズマや植物ウイルスについて、全ゲノム解読や病原性遺伝子・抵抗性遺伝子・宿主特異性決定機構等の解明に世界に先駆け成功。
- ・ 日本で初めて植物病院を設置するなど最先端の研究成果を現場に活かす取組を実践。

## 【職歴】

S57.4 日本学術振興会奨励研究員

H 7.6 東京大学農学部教授

H 8.4 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

H11.4 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

H16.6 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

H21.4 東京大学総長特任補佐(兼務)

まつなが わき

松永 和紀

科学ジャーナリスト

(H24.4 ~ 農林水産技術会議委員)

- ・ 食品にからむ多岐にわたる情報について、科学的根拠に基づいて分かりやすい発信に取り組む。
- ・ 著書「メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学」で科学ジャーナリスト賞受賞。

## 【職歴】

H元.4 毎日新聞社入社 記者

H12.1 フリーの科学ジャーナリストとして活動開始